

平成30度 学校経営方針

1 学校教育目標

「豊かな人間性を育て、輝かしい未来を築く、たくましい生徒の育成」

◎開拓精神をもって、真理の探究に努めよう

- ・ 困難と闘い、困難を乗り越えて自己実現を図る
- ・ 人生の目標を確立し、一步一步着実に真理を探究する

◎心身共に健康で、個性豊かな人間になろう

- ・ 健康に留意し、運動によって強い心身を鍛える
- ・ 自己の長所を伸張し、豊かな独自性のある自己を開発する

◎友愛の心をもって、よりよい社会をつくろう

- ・ 友人や世の中の人々に思いやりの心をもつ
- ・ 明るく正しい心をもって、住みやすい社会をつくる

◎人間としての誇りをもって、責任ある行動をとろう

- ・ 人間としての喜びや誇りをもつ
- ・ 深く考えて誘惑に打ち克ち、正しい行いをする

2 校 訓

「 誇 り と 責 任 」

平成12年3月制定

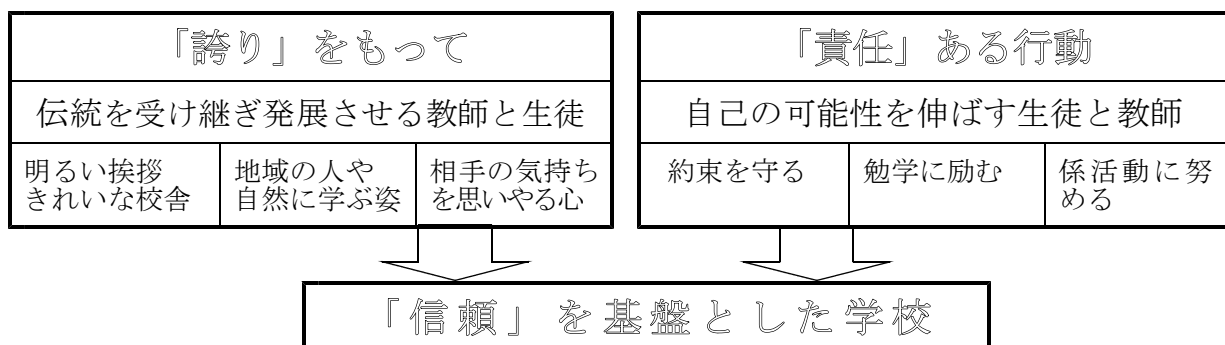
【制定の趣旨】

「明るい挨拶が交わされ、清掃の行き届いた美しい校舎を、そこに住むすべての生徒、教職員の心として、誇り高い公正さと、遵法精神を大切に、社会の一員として立派に責任を遂行できる人間となるようにとの願いが込められている」

3 学校づくりの理念 （校訓を生かした学校づくり）

昭和35年に開校した本校は、今年で56年目を迎える。校舎改築を境に校訓を制定し、本校のよき歴史と伝統を継承することで、よりよく発展してきた。理念は校訓を生かす学校づくりであり、「誇り：伝統を受け継ぎ発展させる学校」「責任：自己の可能性を伸ばす学校」を柱として、「信頼された学校」をめざし、着実に実践をすすめてきている。その成果は各部活動における全道、全国大会での活躍をはじめ、上川管内教育実践表彰や旭川市文化奨励賞の受賞に見てとれる。学校経営にあたっては、生徒同士、生徒と教師、教師と保護者、家庭・地域と学校などの『信頼』関係が基盤であることを再確認し、力のある学校に向けて邁進しなければならない。

「誇り と 責任」で織りなす「信頼」された学校



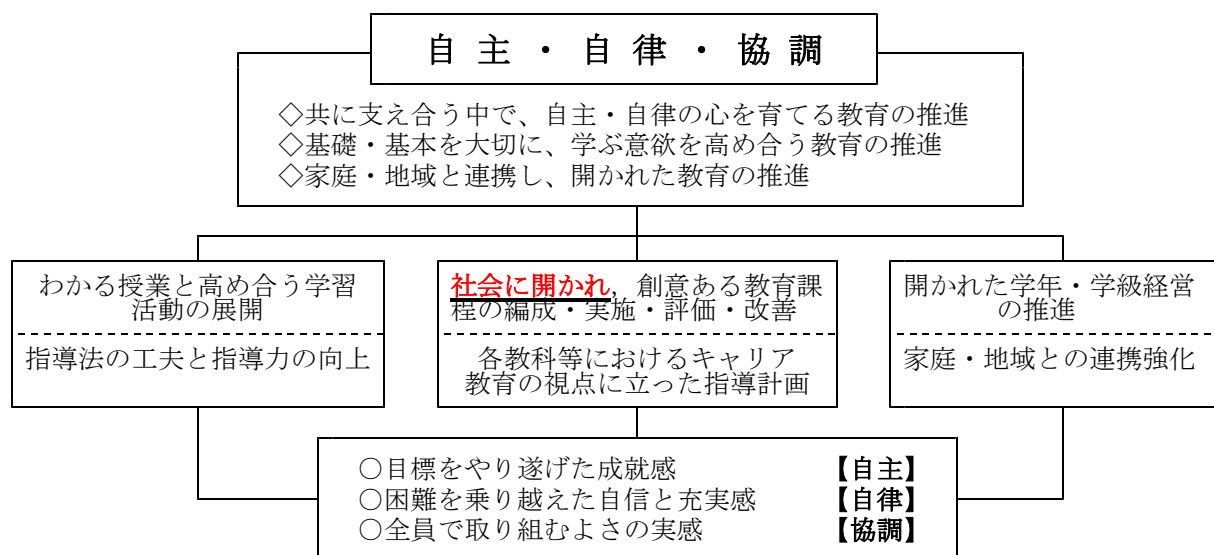
4 教育方針

3つのキーワード

【自主】 【自律】 【協調】

本校生徒の大半は素直で、節度ある態度で学校生活を送っている。しかし、教師の指示を待って行動する傾向も見られ、主体的に判断し行動すること、自らを律しつつ他と協調して行動すること、より価値の高い目標に向かって意欲的に行動することに物足りなさを感じる。学校評価・保護者・生徒アンケート等からも、「時と場に応じた適切な言動、生活リズムなどの基本的生活習慣の定着」「学級活動や行事、部活動を通じた望ましい人間関係の構築」「基礎的・基本的な学力を身につけ、進んで学習する態度や習慣の育成」などが課題として浮き彫りとなり、それらを確実に身につけさせることが学校としての緊要な課題となっている。これらは次世代を担う子どもたちに必要とされる「生きる力」の理念と重なるものであり、本校の学校教育目標「豊かな人間性を育て、輝かしい未来を築く、たくましい生徒の育成」の達成に結びつくものである。これらのことから、教育方針に【自主】【自律】【協調】の3つのキーワードを掲げ、日々の実践を積み重ねている。「自主性・自律心・協調性」はそれぞれが深く関連し合い、補完し合う関係にあり、全教育活動を通して総合的に育むことで、その定着を図りたい。中学生の時期は思春期特有の課題が現れるほか、自らの生き方を模索し始める時でもあるので、よりよい人間関係をつくり、その中で多様で豊かな体験と学習を積み重ねることが、人格の形成に向けて極めて重要である。そのため、意図的・計画的・重点的な教育活動を編成実施し、豊かな経験を積ませるように努力を重ねていきたい。

本年度も教育方針の柱として、「自主性・自律心・協調性」を掲げ、それを高める創意ある教育課程を編成実施し、評価・改善を位置づけ、マネジメントサイクルを活用して学校経営を進める。根本であるわかる授業の追求と、高め合う学習活動の展開に取り組み、生徒が生き生きと活動し、誇りに思う学校の構築をめざす。また、豊かな心の育成を緊要の課題として、道徳の授業を要としつつ全教育活動の中で思考と行動を重視し、全教職員で指導を進めたい。本校の長い教育の歴史と実践を土台として飛躍する一年となるよう、家庭・地域との連携をさらに深め、開かれた教育を推進する。そのことが北門中学校で学ぶ生徒、通わせる保護者、支える地域の信頼を高めることにつながるものである。



5 年度の重点目標（めざす生徒の姿）

校訓である「誇りと責任」を生かした学校づくりを推進する際、教育方針である「自主・自律・協調」をどの場面でどのように意図的に組み込んで、**誇りを育み、責任ある行動**を支えるかが重要である。そこで、前年度の自己評価や関係者評価、さらには生徒の姿から、課題を明らかにして年度の重点目標を定め、めざす生徒の姿を求めて教育活動を推進する。

- | | |
|-----|--|
| 誇 り | ①自他を大切にし、豊かな人間性と社会性を身につけた生徒
②文武両道に励み、心身ともに健やかでたくましい生徒 |
| 責 任 | ③自ら学び考え、適切な判断や問題解決が出来る生徒
④自分の成長を実感し、自己実現をめざす生徒 |

6 学校経営のスタンス

社会の急激な変化は価値観の多様化を進め、学校教育に様々なかたちで変革を求めてきた。また、情報化は拡大を続け、社会生活のみならず、家庭教育や子どもたちの生活にも大きな影響を与え、知識基盤社会の到来に伴い、学校は実態に応じた適切な対応に迫られている。学校に対する期待や要望は、今後も更に多様化することが予想されるが、校訓を生かした学校経営の軸足をずらさずに「信頼を基盤とした学校」づくりを推進しなければならない。そのためには、北門中学校としての使命（ミッション）と構え（スタンス）を維持し、「人を育てる」という大前提のもと、教職員全ての協働で学校経営に全力を注ぐことが重要である。

（1）公教育としての役割を果たす学校

- 「人格の完成」を目指し、「国家・社会の形成者」としての資質を育てる。
- 「生涯学習の基礎」をしっかりと教え、育てる。

（2）法令に基づく学校運営

- 法令を遵守し（コンプライアンス）、説明責任と結果責任を果たし、信頼性を高める。

（3）組織力を活かし、集団生活を通じた教育活動

- 集団のもつ練り合う、助け合う、磨き合う、高め合う機能を経営に生かす。

（4）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成と実施

- 教職員の創意・工夫を教育課程の編成と実施に生かす。

（5）特色ある教育実践

- 近文地区の歴史や文化（特にアイヌ）、地域人材を本校の教育力として活用し、特色ある教育の推進に努める。

7 経営の重点

学校は生徒一人一人のよさを見出し、可能性を伸ばし、人格の完成を目指すため、組織体として機能を発揮し、その目標の達成を目指さなければならない。また、生涯学習の基礎・基本を培うとともに国家・社会の形成者としての資質を育てる役割を担っている。全教職員が学校教育目標の達成に向け、自己の持ち味と特性を十分に発揮し、その責任を果たさなければならない。不十分な面、不足の面を謙虚に自覚し、互いの連携を深める中で、組織としてより大きな力が発揮できるように努めることが大切である。互いに切磋琢磨し、吸収し合い、力量形成を図り、学校力を高めて生徒の自己実現を支えていくことが責務である。また、その過程で信頼感を相互に深め、石垣のごとく強固な経営基盤を形づくっていききたいものである。教師集団の基盤の確かさが、生徒の自主・自律・協調の心や態度を育て、知・徳・体のバランスがとれた成長を支える大きな力となることは間違いない。それは保護者が学校を信頼する極めて大きいものになることは言うまでもない。

そこで、信頼される学校の実現のため、友人や教職員と関わる中で自分を伸ばし、成長の喜びを感じる学校の姿を求めたい。また、心身の成長につながる適切な負荷をかけ、それに向かう努力や克服するなどの人間力を高めたい。その具現化を図り、「誇りと責任」を実践する生徒と教師、その姿を通して「信頼された学校」を目指す経営に努める。

経営の視点

- 全教職員の連携を大切にした「協働体制の確立」
- 信頼と責任に基づく「三者（学校・家庭・地域）連携の強化」

- 誠意ある「迅速・的確・誠実・公平な対応」
- 実態の正確な把握をもたらす「報・連・相・打の徹底」
- 「楽しい学校・鍛える学校」の具現化策と実践

経営の重点

(1) 率先垂範の姿勢で信頼される学校づくり

- 6つの資質の実践（挨拶の励行、環境美化、対話と励まし、地域と連携、約束の厳守、協働）

(2) 学校教育目標の具現化や教育方針達成をめざす組織的・計画的な学校運営

- 組織マネジメントの機能を活用した、学校運営の推進
- 目標の共有化を図り、教職員の経営参画を基盤とする学校運営の推進
- 教職員の連携を高め、円滑な運営をめざす組織体制の確立

(3) 社会に開かれ調和のとれた創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善

(カリキュラム・マネジメントを確実に実行し何が身についたかを明らかにする)

- 自主・自律・協調の態度や心を育む各領域の関連を図った指導計画（特別の教科・道徳への準備）
- 基礎・基本の定着を図り、学ぶ意欲を育てる指導方法の工夫・改善
- 地域の人材や教育環境を活用し、小中連携の取組など9年間を見通した特色ある教育課程の編成
- キャリア教育の視点に立った創意ある年間指導計画の作成と推進

(4) 学校生活の基盤であり、真の居場所とする学級・学年経営

- 保護者との適切な連携を図り、共に育てる開かれた学級・学年経営の充実
- 人間関係の絆を深め、自主的な話し合い活動を促す学級・学年経営の工夫
- 自己存在感・自己有用感を持たせる学級・学年経営の工夫
- 学年内の連携を深め、組織的に機能する学級・学年経営の推進

(5) 確かな指導力と豊かな人間性の向上を図る研修

- わかる授業の構築とアクティブラーニングの視点から学ぶ意欲を高める指導力の向上を図る研修
- 学校課題に即し、授業実践を軸にした組織的・計画的な研修の推進
- 教職経験とニーズに応じた研修会、研究会などへの参加促進と成果の交流（年一回以上）

(6) 家庭や地域等との連携を強化した開かれた学校

- 教育方針や内容の積極的発信（地域公開参観日等）と家庭・地域のニーズを把握する方策の工夫
- 地域の人材・環境等の教育機能を活用した教育活動の展開
- 保護者、地域及び学校評議員との一層の連携強化（小中連携の取組強化）

(7) 学ぶ意欲を醸成する潤いと安らぎのある教育環境

- 落ち着きのある校舎内、敷地内の環境美化と維持活動の促進
- 計画的・効果的な環境づくり（言語、掲示、放送）
- 施設、設備の活用と安全の確保（保守・点検・整備）
- 余剰教室の多面的活用と整理整頓

(8) 効率的・効果的で適正な学校事務

- 学校配当予算の計画的・効率的執行
- 財務、諸公簿、文書、情報、物品等の適正管理
- 効果的な教育環境の整備・充実

(9) 危機管理（事故・服務・災害・情報・生徒指導）の徹底

- 多くの目、耳、感性での情報収集（保護者や関係機関を含む）と死角をなくす行動連携の徹底
- 報告・連絡・相談・打合せを徹底し指導に生かす工夫・改善（指示・連絡の経路、手順、範囲）
- 的確な判断に基づく初期対応の徹底（生命最優先、安全第一の原則）
- 被害を最小限にとどめる臨機応変の対応と記録化の徹底（説明責任）

8 指導の重点

指導の視点

- 結果と「過程重視の指導観」「やればできる」「努力すれば良い結果につながる」と生徒が体感する指導
- 生徒に寄り添い、語り込む「共感的指導」「隙を作らない指導」
- 頑張りを探して見つけて、一人一人を大切に「でっかく評価」

指導の重点

- (1) 学習指導：個と集団の機能を活用し、主体的・対話的で深い学びを育てる学習指導
「学びの地図」～「何を教えるか」から「何ができるようになるか」
 - 自己選択や自己決定の場面をとりいれた問題解決的な学習指導の工夫
 - アクティブラーニングを意識し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するために共有すべき授業改善の視点とする。
 - 自分の足りない面や、学び方を自覚させ、学習意欲を高める指導
 - 授業を通して学び方や学習規律の定着を進める指導（家庭学習の習慣化への取組強化）
 - 少人数指導（T T指導も含む）の継続と指導形態や指導方法の工夫改善
- (2) 生徒指導：思いやりと自らを律する心を育てる生徒指導
 - 基本的生活習慣の定着に向け、毅然とした姿勢で、計画的に繰り返す隙間のない指導
 - 全教師共通の指導観と共通行動、受容的・共感的理解に基づく粘り強い指導
 - 悩みや問題行動の早期発見に向け、サインを見逃さない日常的な教育相談を充実させる指導
- (3) 道徳教育：豊かな心を育て、人としての生き方を自覚させる道徳教育
「答えが一つではない課題に道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育
 - 各行事やボランティア活動、体験活動を通して、実践意欲を高める指導
 - 自らの生き方や在り方をふり返し、より価値のある生き方を模索する態度を培う指導
 - 人間弱さや多面性を自覚し合い、その克服に互いに支え合うことを実感させる指導道徳（特別の教科）化に関わって
 - いじめ問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的な内容への改善
 - 問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、指導方法を工夫
- (4) 特別活動：望ましい集団活動を通して有用感や成就感を広げ、社会性や自主性を育てる特別活動
 - 話し合い活動を大切にし、一人一人の成長を促し、より良い人間関係を育む学級活動の充実
 - 協力する心や、やり遂げた充実感を味わえる創意ある学校行事の推進
 - 望ましいリーダーを育て、主体的・意欲的に活動する学年行事の推進
 - 学校生活の課題や改善点に気づき、自治的な活動を促す生徒会活動の充実
- (5) 総合的な学習：主体的に学び、創意工夫し、生きてはたらく力を育てる総合的な学習の時間
 - 学年の発達段階や各教科、特別活動との関連を図った年間指導計画の作成
 - 達成すべきねらいや解決すべき課題を明確にした学習過程の工夫
 - 地域の特色を生かし、体験的な学習をとりいれた指導の工夫
 - 教科等で培った力を総合的に発揮し、問題解決力を高める指導の推進
- (6) 進路指導：自己理解や生き方指導を通し、望ましい勤労観や職業観を育てるキャリア教育としての進路指導
 - 全教育活動を見通した全体計画と発達段階に応じた指導計画（上川版マイノートの活用）
 - 自己理解や学ぶ意義を実感させるキャリア教育としての3年間を見通した計画と実践
 - 体験的な学習を通し、働くことの意義や価値を実感させる指導の工夫
 - 進路に関する資料・情報の収集や適切な活用を図った進路指導の充実

(7) 健康安全指導：自他の生命を尊び、自ら心身を鍛える意欲を高める健康安全指導

- 生涯体育の基礎となる運動技能やたくましい体力を養う体育的活動の充実
- 健康的で安全な生活を営む意識や態度を育てる指導の充実
- 美化意識の高揚、清掃活動の充実を通じた清潔な学校づくりの推進
- 食育指針に基づく食に関する計画と指導の充実

(8) 特別支援教育：生徒一人一人のニーズに応じ、自立に向けた力を育てる特別支援教育

- インクルーシブ教育の考えに立ち、コーディネーターを中心に生徒一人一人の特性に応じたきめ細かな校内外支援体制の充実（交流及び共同学習のより一層の充実）
- 将来の自立や参加を促す指導内容の精選と関係機関との適切な連携と協力
- 的確に実態把握し、個別の指導計画（上川版すくらむ）の作成と校内支援体制づくりの充実
- 個々の障がいの状態に応じた指導内容や指導方法の工夫（合理的配慮・環境整備、校内研修）

(9) 部活動指導：目標を共有する中で仲間意識を深め、幅広い人格形成を図る部活動指導

- 指導を通して基本的生活習慣の深化・拡充・発展をねらい、実践力の育成を図る
- よさや可能性を自覚させ、自尊意識を高める指導
- 人や仲間への思いやりの心を育て、人格形成を促す指導
- 部活動で得た成果を他の場面にも発揮させる全校体制での指導
（勝利至上主義でなく、心身の健全な育成を目指して）